

# くすっ子



鴻巣市立屈巣小学校  
学校だより  
令和3年 8月30日  
No. 10

《花いっぱい 夢いっぱい 笑顔いっぱい 屈巣小》  
花をさかせる学校・夢をはぐくむ学校・笑顔あふれる学校

## 「むくわれない努力」をそのままにしない

校長 諏訪 けん

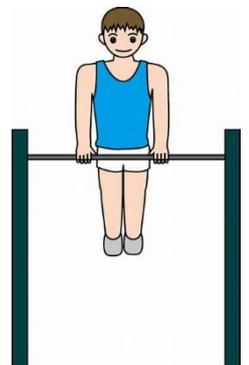
学び舎に子どもたちの元気な声が戻ってきました。やはり、子ども達がいての学校であることを実感します。しかしながら、最近の新型コロナウイルス（デルタ株）の感染状況を鑑みると、学校における感染予防対策の徹底を再度図り、可能な限り「学びを止めない」ことに注力しなければなりません。本校における予防対策については、すでにメール等にて、お知らせしておりますが、今後の児童・ご家族様、また地域の感染状況に応じて、固定観念にとらわれず学校としての判断をしていくことも視野に入れて、2学期の教育活動を再開いたします。保護者の皆様におかれましても、ご家庭内の感染予防にご留意いただくとともに、学校における感染予防対策に、ご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

さて、オリンピックに出場した内村航平選手を多くの方がご存知かと思えます。長年体操界を牽引し、ベテランの域に達している選手です。今回のオリンピックでは、個人の鉄棒種目1本に絞り、金メダルを狙っていた選手です。その内村選手が演技中のまさかの落下により、予選落ちをしてしまいました。私は、そのニュースを知り、年齢的なことを考えると「これで引退だろう」と、大変失礼ながら思っていました。

ところが、予選落ちした日から約1か月後のテレビのインタビューで以下のようなコメントを発しているのを知り、生きる力をもらいましたので、みなさんにも、ご紹介いたします。

- ・予選落ちした直後は、「努力はむくわれる」とよく言うが、「**むくわれない努力**」があるのだと感じた。
- ・自分は最大限の努力をしてきたと思っていたが、その後、冷静になって、**落下したことは事実で、それなりに落下の原因があるはずだと考えた**。そして、落下した時の技は、さほど難しくない技なので、練習の量を減らし、高得点につながる難しい技に多くの時間をかけていたためだと、**落下の原因に気づくことができた**。自分は精一杯努力してきたのに、なぜ負けた「むくわれない努力をしていた」と、初めは思ったが、**むくわれないのではなくて、努力がまだ足りないところがあったのだと最終的に気づくことができた**。
- ・一般的にオリンピックは、「参加することに意義がある」といわれてきているが、自分は、「メダルを取ってこそ意義がある」思っていた。しかし、上記のように考え、原因に気づくことができたので、「**参加することに意義がある**」という言葉の意味がわかった。
- ・年齢的に厳しい状況にあるが、「むくわれない努力はない」と、言い切れるようにするために、**次の大会に向けてまだまだ選手生活を続けます**。

このように話していた内村選手から、新たな考え方（＝生きる力）を学びました。それは、努力を無駄に終わらせないために、失敗してもやり直せる、再チャレンジできる力ということです。このことは、子どもたちにも当てはめることができます。「花いっぱいの屈巣小」の花は、植物の花だけではありません。児童の心に咲く花も意味しています。内村選手のような考え方（＝心）を子どもたちにも伝え、開花させたいです。



【緊急事態宣言の趣旨を踏まえて以下のように、対応いたしますので、よろしくお願いいたします。】

※2学期は、バスを利用した校外学習等(生活科社会科見学・修学旅行)が予定されていますが、緊急事態宣言期間中は、その実施を延期いたします。なお、延期しての実施日は、今後の感染状況や宣言解除の動き、訪問先の受け入れ状況等を鑑みながら設定し、児童の参加についての確認を改めてさせていただきます。

○9月10日の6年生(日光方面日帰り)は、延期(延期日は未定)

○9月22日の1・2年生と29日の5年生は、予定日前に宣言が解除される状況があれば実施

○10月27日28日の6年生修学旅行と11月19日の3年生は、10月以降の状況をみながら、判断